

## 蔵王山の火山活動解説資料（令和2年7月）

仙台管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、概ね静穏に経過しています。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図1、2、図3-①）

遠刈田温泉に設置している監視カメラによる観測では、丸山沢の噴気は観測されませんでした。

上山金谷、刈田岳及び御釜北に設置している監視カメラによる観測も含め、御釜付近の噴気及び地熱域は認められませんでした。

#### ・地震や微動の発生状況（図3-②③⑤、図4）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。御釜の東側から南東側の深さ20～30km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状態で経過しました。

#### ・地殻変動の状況（図3-④、図5、図7）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

### ○活動評価

蔵王山では、2013年以降、一時的な火山活動の活発化が時々みられていましたが、火山性微動は2019年1月以降観測されておらず、火山性地震も少ない状態で経過するなど、最近の火山活動は概ね静穏に経過しています。また、2013年以降、やや多い状態で経過していた深部低周波地震も、2019年11月以降少ない状態で経過しています。これらのことから一連の活動は終息したとみられません。

---

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年8月分）は令和2年9月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。



図1 蔵王山 山頂部の状況

- ・左上図：遠刈田温泉監視カメラ（山頂の東約13km）の映像（7月24日）です。
  - ・右上図：御釜北監視カメラ（御釜の北約800m）の映像（7月21日）です。
  - ・左下図：上山金谷監視カメラ（山頂の西約13km）の映像（7月19日）です。
  - ・右下図：刈田岳監視カメラ（御釜の南約800m）の映像（7月21日）です。
- 注1）御釜から噴気が噴出した場合、高さ200m以上のときに遠刈田温泉監視カメラ及び上山金谷監視カメラで観測されます。監視カメラからは直接見えませんが、赤破線が御釜の位置を示します。

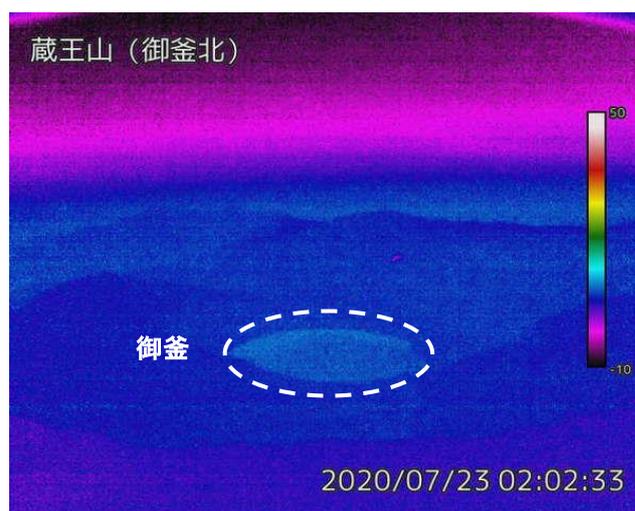


図2 蔵王山 山頂部の地表面温度分布（7月23日）

- ・御釜北監視カメラ（御釜の北約800m）の映像です。
- ・地熱域は認められませんでした。

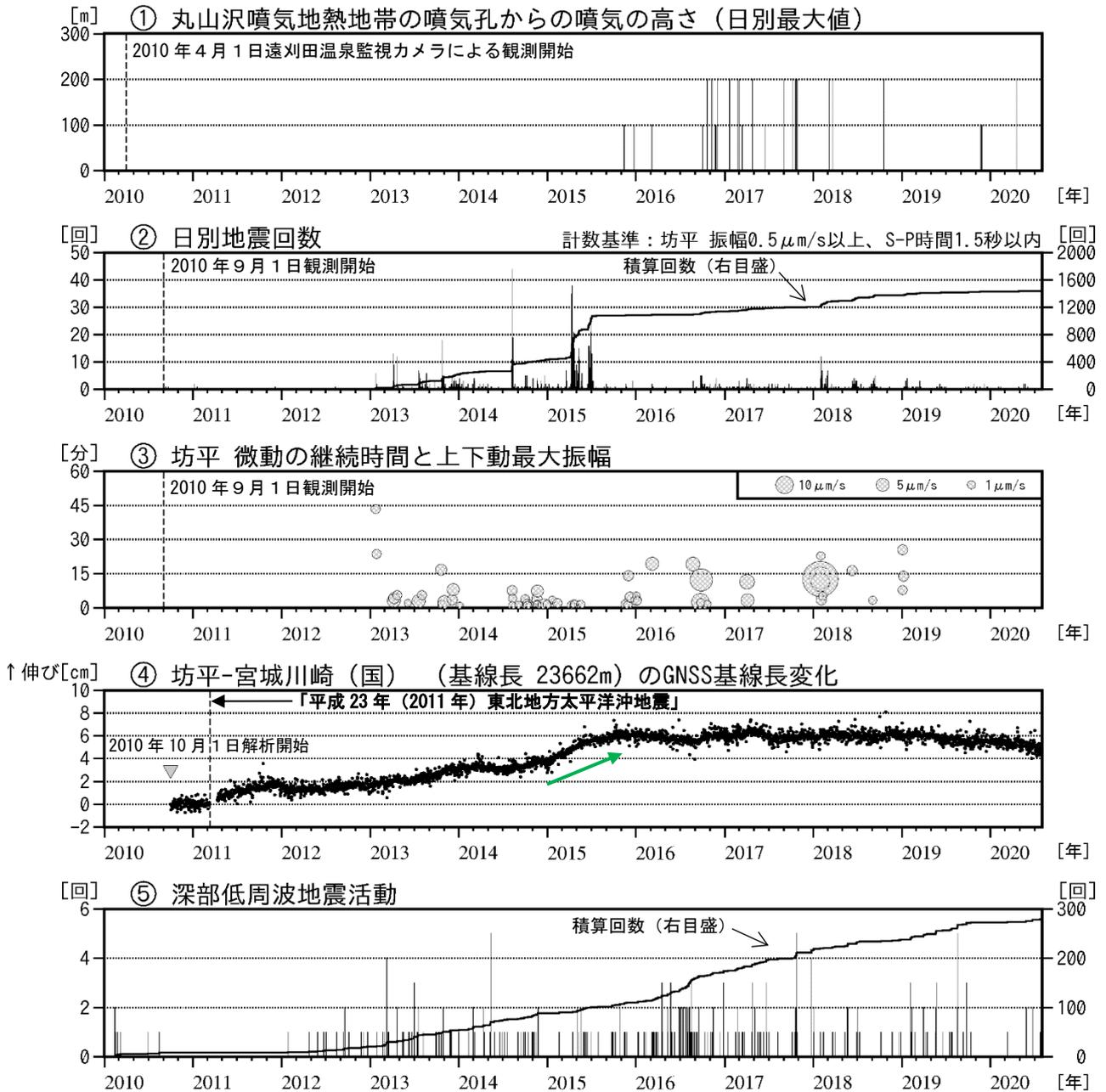


図3 蔵王山 火山活動経過図（2010年4月～2020年7月）

- ・①遠刈田温泉監視カメラ（山頂の東約13km）による観測です。
- ・④は図7のGNSS基線①に対応しています。
- ・④2014年から2015年の火山活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化が観測されています（緑矢印）。
- ・④「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・⑤2013年以降、やや多い状態で経過していた御釜の東側から南東側の深さ20～30km付近を震源とする深部低周波地震は、2019年11月以降少ない状態で経過しています。

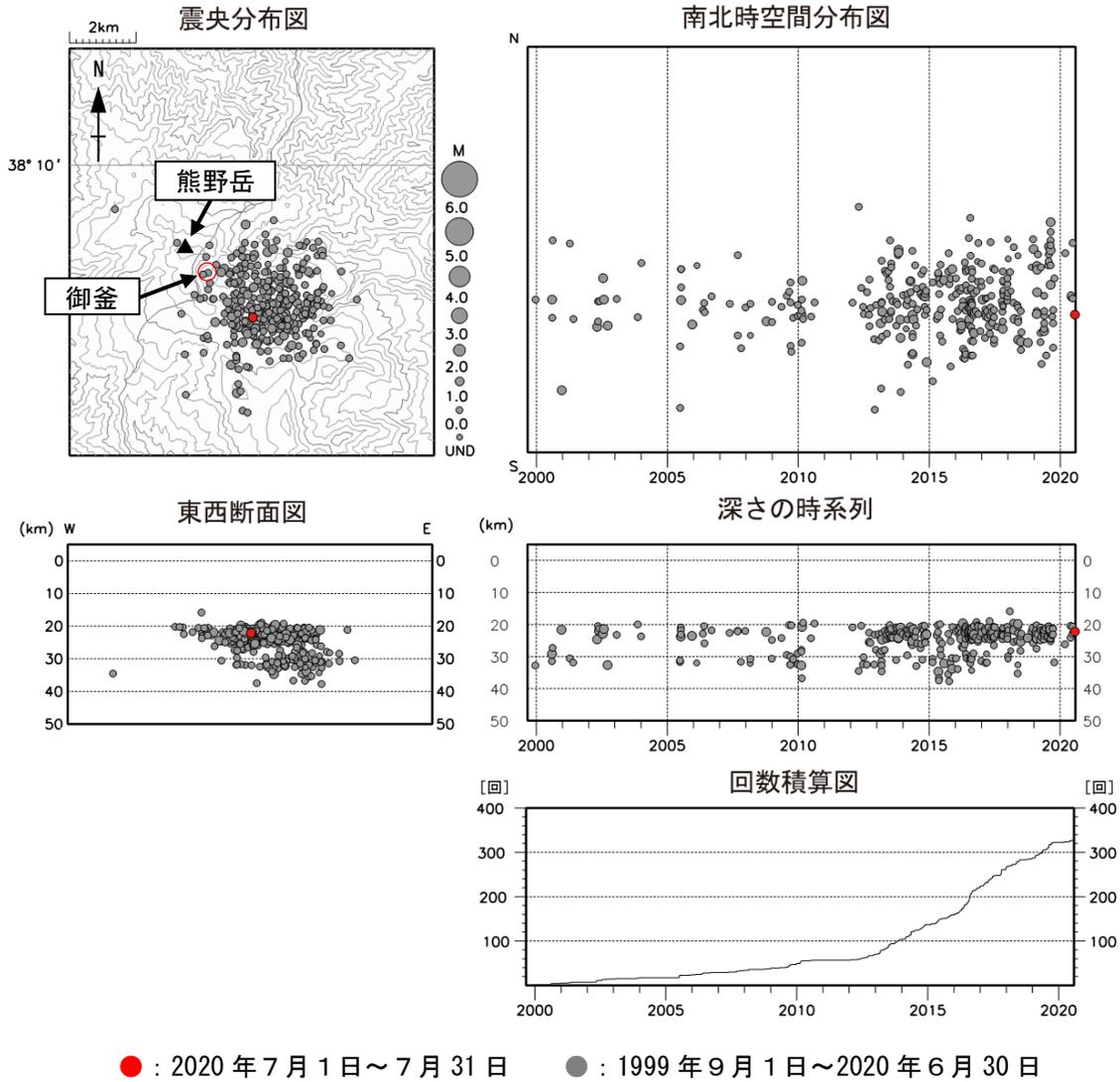


図4 蔵王山 広域地震観測網による深部低周波地震活動（1999年9月～2020年7月）

- ・今期間、深部低周波地震は少ない状態で経過しました。
- ・2013年以降、やや多い状態で経過していた御釜の東側から南東側の深さ20～30km付近を震源とする深部低周波地震は、2019年11月以降少ない状態で経過しています。

注2）2001年10月以降、検知能力が向上しています。

注3）2020年4月18日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

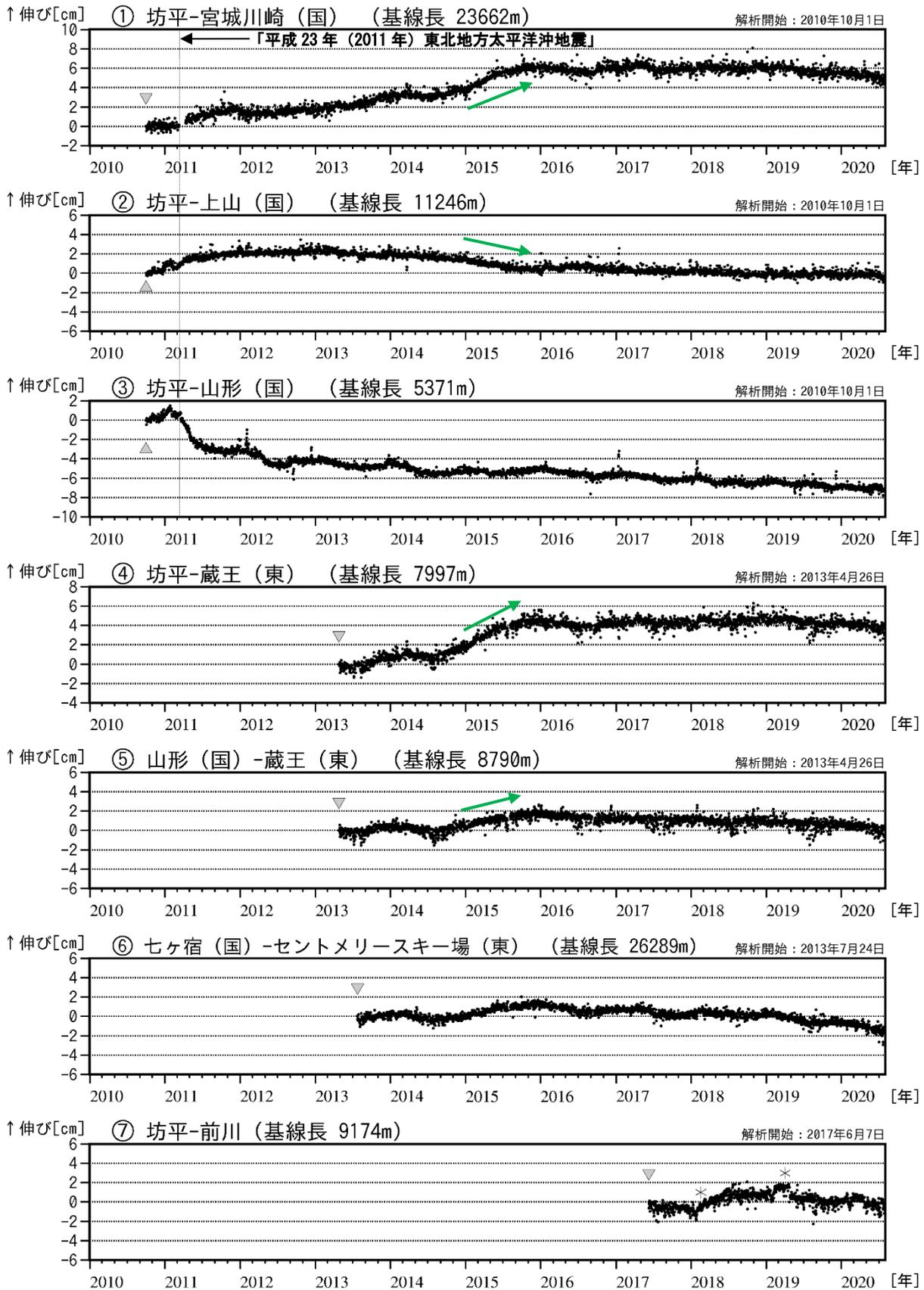


図5 蔵王山 GNSS 基線長変化図（2010年10月～2020年7月）

- ・2014年から2015年の火山活動活発化の際に、山体のわずかな膨張を示す変化が観測されています（緑矢印）。
- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑦は図7のGNSS基線①～⑦に対応しています。 ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・（国）は国土院、（東）は東北大学の観測点を示します。
- \*：前川観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- ▲▼：解析開始を示します。

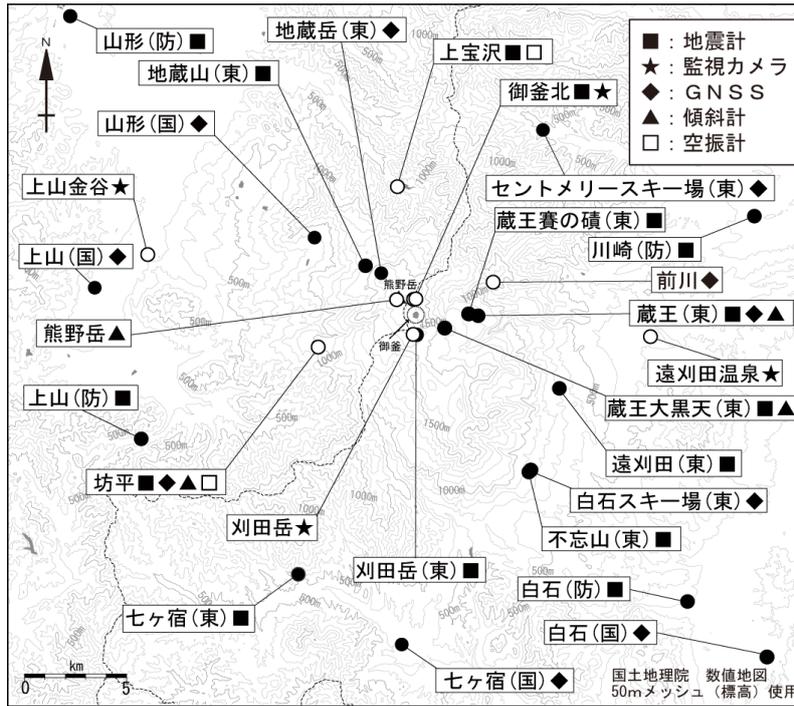


図6 蔵王山 観測点配置図

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学

(防) : 防災科学技術研究所

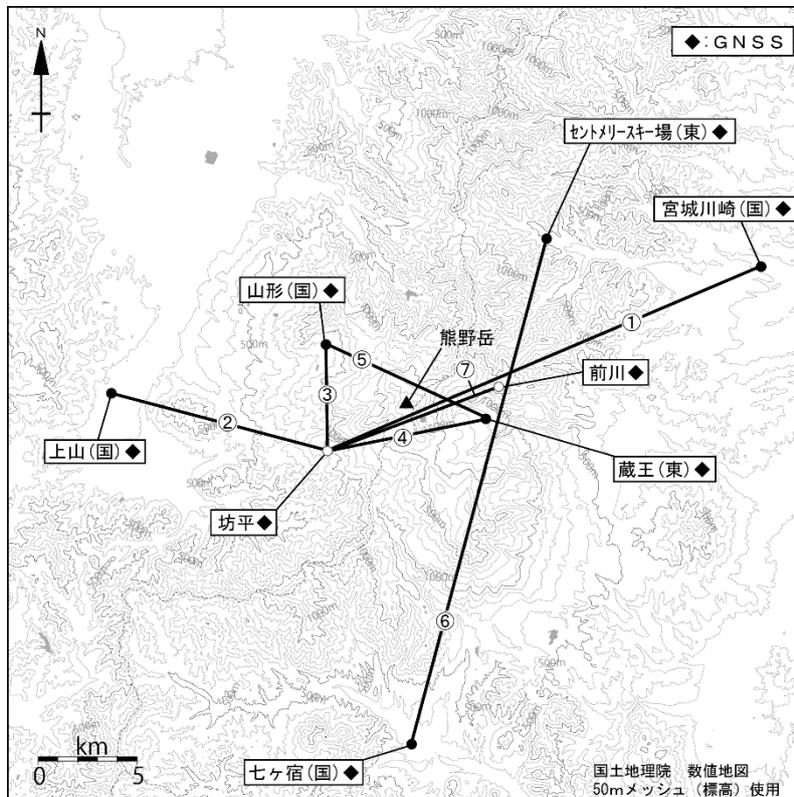


図7 蔵王山 GNSS 観測基線図

白丸 (○) は気象庁、黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学